

# すいか



科名	特 性
ウ リ 科	つる性一年草、また、その果実
	夏に球形または楕円形の甘みを持つ果実を付ける。園芸分野では果菜（野菜）だが、栄養学上の分類では果物と分類される。
	果肉や種子に含まれるカリウムは疲労回復並びに利尿作用があるため、暑さで体力を消耗し水分を過剰摂取することで起こりがちな夏バテに効果がある。

品種：HRプライム

## 生産者紹介



平川さんは、家族2名（本人、妻）ですいか、はくさい等を栽培されています。

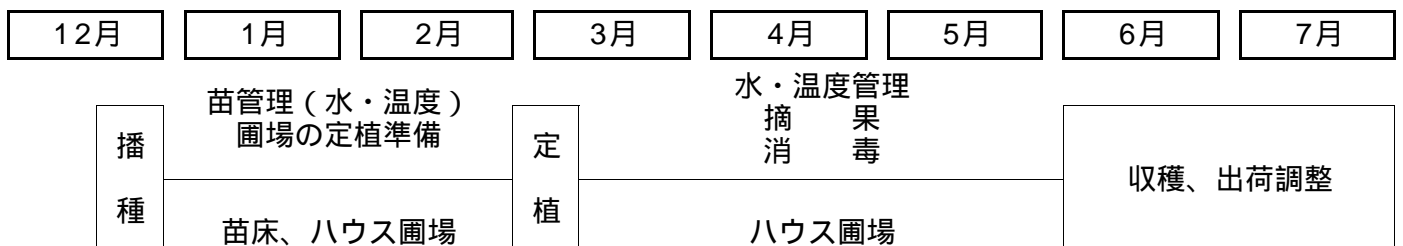
現在は、すいかの病害虫の発生に気をつけて栽培されています。

今後も継続してすいかを生産し、安定した農業経営ができることを目指されています。

南島原市では、すいか 42ha（420,000㎡）が作付けされています。（推計）

ハウス前にて（奥さんと本人）

### 平川さんの栽培管理状況



# 作業風景と作物の生育状況



取材させて頂くハウスです。  
広さは300㎡です。

月日	作業風景	作物の生育状況
12月 下旬	  <p>親床で育った苗を箸で器用にポットへ仮移植します。 親床の苗は右の写真上部にあるように密植していますので、播種から7日後にポットへ仮移植して大きく育てます。</p>	 <p>ポット苗の地温を一定に保つ為、温度計で計測し、ビニールの開閉を行います。</p>
1月 上旬	  <p>播種から14日後に台木と穂木を接木（つぎき）します。 台木は播種から14日後で、穂木は播種から7日後の苗です。 （老眼鏡が必要になってきました。）</p>	 <p>接木後、10日目です。 温度管理と水管理が重要です。</p>

3月  
上旬



丈夫に育った苗をハウス圃場へ定植します。  
しっかりと定植準備が整った圃場です。  
一つずつ、丁寧に手で植えられます。

4月  
中旬



定植から1ヶ月が経過しました。  
順調に育ち、花も立派に咲いています。  
雌花の下の方が膨らんできています。

4月  
下旬  
～  
5月  
下旬



雌花の部分からすいかになるまでをご覧ください。

成長過程で一番良いすいかを残して残りは全て摘果し、一本のつるから一個のすいかが育てられます。  
そうすることにより養分を一人占めして大きく育ち、あまくておいしいすいかが育てられています。

6月  
上旬  
~



しっかり大きく育ったすいかを収穫した後、作業場での箱詰め作業です。  
この時も傷などが付かないように床にはカーペットなどが敷き詰められています。

箱詰めされたすいかは全国へ運ばれていきます。